



液体を満たした縄文の^{どびん}。3500年前、塩野滝沢遺跡出土。
液体の内容とは、酒ではなかったか。現在ミュージアムで展示中。

縄文の酒と祭り

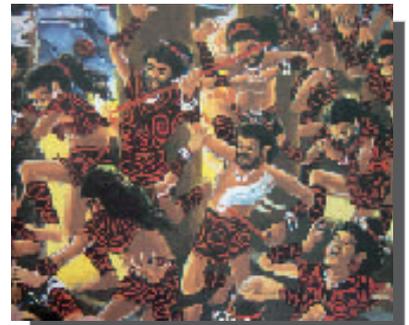
日本人は、いったいいつから酒を酌み交わすようになったのか。

縄文時代、酒があったとか、なかったとか、これまで議論が続いていたが、青森県三内丸山遺跡などで、酒造りのためのものとみられるニフトコとよばれる植物の種が大量にみつかり、数千年前の縄文時代から私たちの祖先は酒を飲んでいた可能性が濃厚になった。

どんな器に酒を満たし、そして注いだのか。

酒を入れたとみられる器は、塩野滝沢遺跡などで見つかっている。写真は、まるで今のどびんのように、3500年前のれっきとした縄文土器である。ここに、ヤマブドウやニフトコで作った酒が、満たされたのではないか。しかし、酒もとうてい大量には作れず、ハレの日などに飲む程度であっただろう。毎日、晩酌を楽しむ今のオトソーサンとは明らかに異なっていた。

酒といえば祭りである。祭りの証拠も縄文遺跡から発見される。激しいリズムを刻んだ土器の太鼓が、豊昇宮平遺跡から発見されている。



縄文まつりの想像図。
画：安芸早穂子

企画展 日本人の起源をさぐる

■好評開催中！9月10日(日)まで ■浅間縄文ミュージアム 常設・企画展示室

御代田町の人口(7月1日現在)

●人口 14,132人(先月比-22) 男 7,086人 女 7,046人
●世帯数 5,427世帯(先月比-2) ●外国人登録者数 797人

みよた広報 やまゆり ●発行/御代田町 〒389-0292 長野県北佐久郡御代田町大字御代田 2464-2 ☎0267-32-3111